

2. 首相職に目覚め始めているバビシュ氏、改革を急いでいる ČSSD

バビシュ氏は隣国スロバキア出身で、チェコ国内 2 位の大富豪¹の実業家である。彼は農業化学をはじめ新聞やラジオ局なども手掛けるアグロフェルト (Agrofert) ・グループを保有している。年間の売上が 80 億ユーロ以上あるアグロフェルト・グループは、3 万人以上の社員がおり、国内で最大の民間雇用者である。個人的な富、政治力、メディア等の影響力を併せ持つバビシュ氏は次の首相になる野心も抱いていると思われる。彼は 6 月に、10 月の下院選挙に向けた自身の本を出版し、選挙公約の概念や「チェコ 2035 年のビジョン」などを発表した²。実業家であるバビシュ氏は、政府による事務の効率化、行政手続きの簡素化やビジネス環境の整備などを強く訴えている。国内における汚職を徹底的に追及すると強調し、行政機関の透明性を一層高めようと考えている。チェコが更なる経済成長を続けるためには、国内で IT や先端技術を駆使したデジタル経済を確立し、普及をさせる必要があるという考え方を示しており、「インダストリー4.0」、IoT 関連の事業にこれから焦点を当てていくとしている。一方、ユーロ導入についてはやや消極的で、難民の受け入れについても反対している³。

【図表2】首相職に目覚め始めているバビシュ氏



(写真: David Sedlecký/
Wikimedia Commons)

しかし、バビシュ氏にはかつて、自身の脱税疑惑やマスコミに対する批判発言の問題等も発生していることから、今回は激しい選挙戦になると予想される⁴。現状の支持率の水準では ANO が単独で過半数を取ることは困難だと思われ、安定した連立相手を探さなければならない状況になる可能性が高い。他方、バビシュ氏の勢いを止めたい ČSSD を中心とする「反バビシュ」の大連立が形成される可能性もあるので、選挙の行方は現時点では不透明である。

ČSSD も今回の選挙キャンペーンにいち早く乗り出し、6 月には下院選挙に向けた公約を発表した。最低賃金の引き上げや中小企業向け減税などを行うとの左派系の政策が目立っており、一般市民を満足させるようなポピュリズム色の強い公約を表明している。更に低下する支持率の回復を狙い、ソボトカ首相は ČSSD の党首を辞任することを発表し、後任として、ホバネツ内務相が就任し、首相職を 10 月の選挙まで継続する。

¹ Forbes 2017. The world's Billionaires. [Czech Republic](#).

² ANO2011 Official HP. První knížka Andreje Babiše [O čem sním, když náhodou spím](#)

³ June 26, 2017. Bloomberg. [We Don't Want the Euro, Says Czech Tycoon poised to be Premier](#)

⁴ May 5, 2017. Bloomberg. [Czech Party Seeks Probe on Leaks Linked to Billionaire Minister](#)

本資料は、信頼できるとされる情報ソースから入手した情報・データに基づき作成していますが、当社はその正確性、完全性、信頼性等を保証するものではありません。本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社及び住友商事グループの統一した見解を示すものではありません。本資料のご利用により、直接的あるいは間接的な不利益・損害が発生したとしても、当社及び住友商事グループは一切責任を負いません。本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。

3. 日本・チェコの関係

こうした中でソボトカ首相は6月、チェコ首相として12年ぶりに来日し、安倍首相と首脳会談を行った⁵。日本・チェコは2017年国交回復60周年を迎え、両国は二国間の協力関係を更に強化したい思惑がある。チェコには現在、約250社の日本企業が進出し、約5万人の現地雇用を創出している。チェコは、欧州の中心に位置し地理的優位性に加え、賃金が西欧諸国よりも低く、国民の教育レベルも高いことから、多くの日本の製造業が工場を設けている。特に自動車とその部品産業への投資が多く、チェコはドイツ、英国、フランスに続き、欧州で4番目に日本企業の生産拠点多い国である。その点からも今後の政界の動向が注視される。

【図表3】東京で発表するソボトカ首相



(写真:住友商事グローバルリサーチ撮影)

以上

⁵ June 27, 2017.外務省 日・チェコ首脳会談